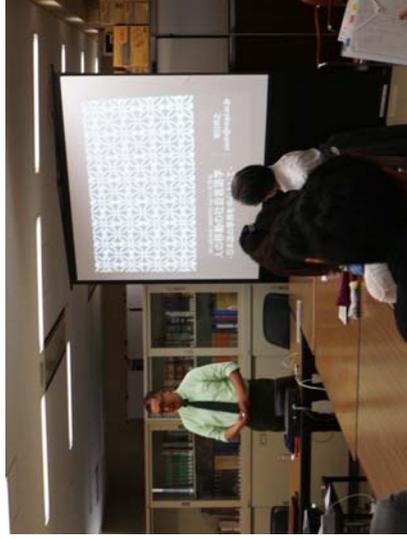




本日の研究会は、今年度より着任された、国立国語研究所の朝日祥之先生が、自己紹介を兼ねて、「人の移動」を言語学的に考えることについてお話してくれました。



人の移動の社会言語学とは？ について、例えばニュータウンの言語使用データを用いて世代や年代ごとの推移を例に挙げたり、写真花嫁としてハワイに移民した女性やその家族の1960年代以降の語りを例に挙げたりしながら、わかりやすく説明してくれました。

Luncheon Linguistics

国際日本学研究院NINJALユニット着任時研究会

人の移動の社会言語学： 日本語をめぐる事象を中心として

朝日 祥之

国立国語研究所、本学大学院国際日本学研究院[クロスアポイントメント]

日時…2018年**5月11日[金]** 12時00分-12時40分

<今回は金曜日の開催となります>

会場…語学研究所 [研究講義棟4階419号室]

共 催：国際日本学研究院 & 語学研究所



印象に残ったのは、レベリングとエスノレクトでした。レベリングとは、例えば東京で方言を使わなくなるように、発音や文法項目などにおいてより耳につく特徴が言語接触によりなくなること、エスノレクトはある言語の言語変種の一つで地域社会に住む各民族の使うものを指し、例えばアメリカにおけるアフリカ系アメリカ英語などが該当するそうです。

今年度は、大学院生向けに「社会言語学概論」というタイトルで、金曜日2限の授業を開設しています。

学生も教員も関心が高かったのか、お昼の研究会に約60名の参加者が集まりました。語研の席が満席に！朝日先生には、10月に連続講演会の一環として講演会を行ってもらう予定です。今から楽しみですね。



質疑応答中の、朝日先生と阿部先生。なんと、阿部先生の学生時代をご存知だとか！

